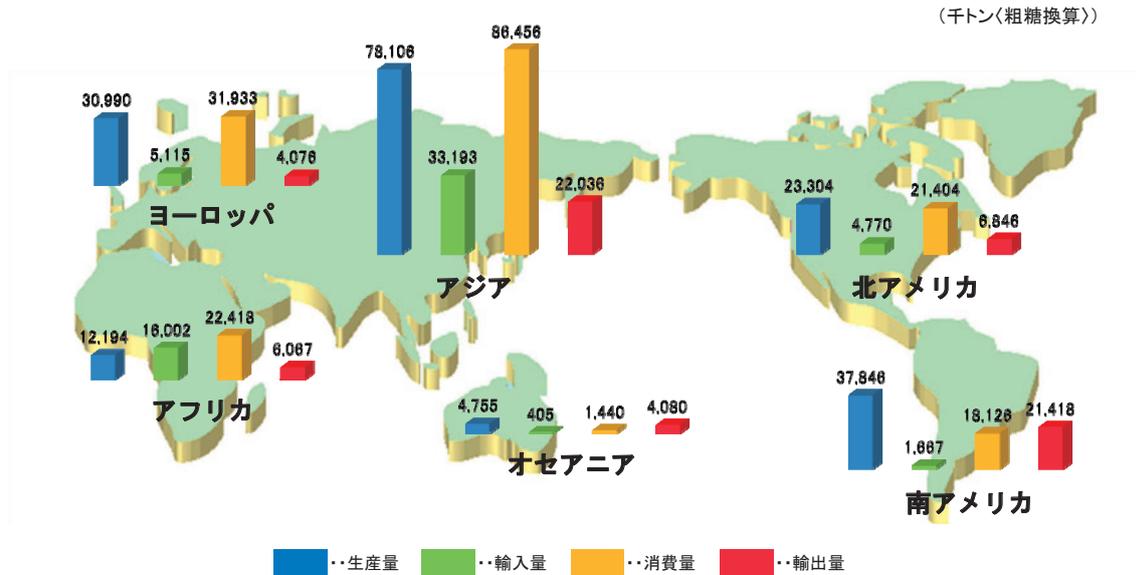


砂糖の国際需給

調査情報部 坂上 大樹

1. 世界の砂糖需給（2019年6月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2018/19年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

| 年度 | 期首在庫量 | 生産量 | 輸入量 | 消費量 | 輸出量 | 期末在庫量 | 期末在庫率 |
|------------------------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 1989/90 | 29,879 | 108,244 | 27,973 | 105,790 | 29,126 | 31,180 | 29.5 |
| 1994/95 | 41,641 | 116,726 | 31,803 | 112,686 | 32,672 | 44,812 | 39.8 |
| 1999/2000 | 62,812 | 133,133 | 36,409 | 127,942 | 39,734 | 64,678 | 50.6 |
| 2004/05 | 63,697 | 144,251 | 47,084 | 146,907 | 50,426 | 57,700 | 39.3 |
| 2009/10 | 55,048 | 160,315 | 56,023 | 164,782 | 56,244 | 50,359 | 30.6 |
| 2013/14 | 63,358 | 184,058 | 58,323 | 175,156 | 61,044 | 69,539 | 39.7 |
| 2014/15 | 69,539 | 183,717 | 59,707 | 176,511 | 62,081 | 74,371 | 42.1 |
| 2015/16 | 74,371 | 175,955 | 67,776 | 179,662 | 69,077 | 69,364 | 38.6 |
| 2016/17 | 69,364 | 180,387 | 70,759 | 181,580 | 71,288 | 67,642 | 37.3 |
| 2017/18 | 67,642 | 195,054 | 66,554 | 180,304 | 69,383 | 79,562 | 44.1 |
| 2018/19 (2019年3月予測) | 79,748 | 188,706 | 62,662 | 183,289 | 64,945 | 82,882 | 45.2 |
| 2018/19 (2019年6月予測) | 79,562 | 187,194 | 61,153 | 181,777 | 64,524 | 81,608 | 44.9 |

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2019年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2019年7月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001996.html

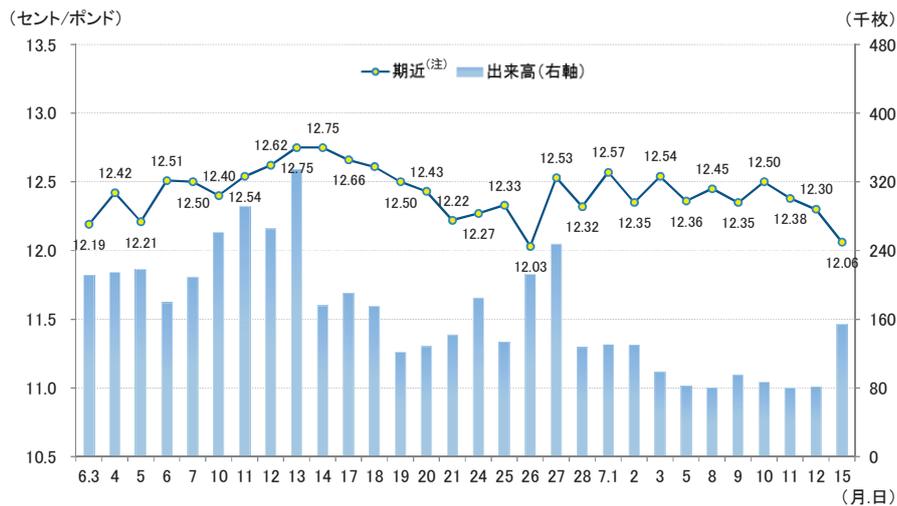
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001997.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (6/3 ~ 7/15)

～7月前半は様子見ムードが強く取引は低調～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：6月は7月限、7月は10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年6月の推移を見ると（7月限^{がつぎり}）、4日はブラジル・レアルの上昇に伴いブラジルからの輸出が抑制されるとの見方から、1ポンド当たり12.42セント^{（注1）}の値を付け、4月以来の水準まで回復した。5日は原油価格^{（注2）}の下落から同12.21セントまで値を下げるも、すぐに値を戻し6日は同12.51セントまで反発した。その後は、インドの干ばつ被害が深刻なレベルとの報道や、トウモロコシ価格の上昇を背景に米国のバイオエタノール生産が抑制され、ブラジル産エタノールの需要が増えるとの観測などが相場を押し上げ、13日は同12.75セントまで値を上げた。しかし、それ以外に価格を押し上げる材料に乏しく、17日以降じりじりと値を下げ、21日には同12.22セントと月初め並みの水準で取引を終えた。24日は7営業日ぶりに値を上げ、同12.27セントとなったが、26日は砂糖需給が依然として緩慢であることや前日の原油価格の下落を受け、前日比0.30セント安の同12.03セントとなった。翌27日は反発し、同

12.53セントまで値を上げ、7月限の納会を迎えた28日は同12.32セントとなった。

7月（10月限）に入ると、1日は同12.57セントの値を付けた。その後は、収穫最盛期を迎えるブラジルの生産状況や原油相場の動向を見極めようと全般的に様子見ムードが広がり、取引は低調で推移する中、相場は方向感が定まらない展開となった。11日は同12.38セントの値を付け、12日は同12.30セントと続落した。週明けの15日は、不安定な価格の動きを受け、売りが先行し、同12.06セントまで値を下げた。

（注1） 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2） 一般に、原油価格が下落すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が低下する。バイオエタノールへの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減るため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が増える方向に作用する。その結果、需給緩和の懸念が強まり、商品相場は下落する傾向にある。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年7月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年6月末日TTS相場の値であり、1ユーロ=124円（123.99円）である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）
生産量：6億2400万トン（同0.5%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3092万トン（同1.2%減）
輸出量：2029万トン（同1.4%減）

2019/20年度、輸出量はわずかに減少する見込み

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年7月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予想に基づく記述）、2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は砂糖の国際相場の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少する見込みであるものの、生育状況がおおむね良好であることから、サトウキビ生産量は6億2400万トン（同0.5%増）と横ばいで推移すると見込まれている（表2）。

砂糖の国際価格の低迷が長期化していることから、サトウキビのエタノール生産への仕向け割合が上昇すると見通しの下、砂糖生産量は3092万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉、同1.2%減）、輸出量は2029万トン（同1.4%減）と、ともにわずかに減少すると見込まれている。

メルコスールとEU、FTAで政治合意

南米南部共同市場（メルコスール）とEUは6月28日、自由貿易協定（FTA）について政治合意した。

この協定が発効すれば、数年かけて関税が撤廃されるものも含めると、メルコスールはEUからの輸入品の91%、EUはメルコスールからの輸入品の92%を完全に自由化する。FTA交渉においてEUが関税引き下げや撤廃に慎重な姿勢を貫いてきた砂糖については、ブラジル産粗糖に対して現行の関税割当数量（33万4054トン）^{（注1）}の範囲内で無税の関税割当枠（18万トン）を設けることで決着した。

これを受け、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^{（注2）}は同日、「ブラジルに与えられた砂糖の関税割当量は、EUの砂糖需要量を考慮すると必ずしも十分とは言えないまでも、自由化が進んだ点などは評価できる。ブラジルの砂糖産業にとって大きな弾みになるだろう」との声明を発表した。

（注1）ブラジル産粗糖に対する関税割当内の関税率は1トン当たり98ユーロ（1万2152円）、関税割当外の関税率は同339ユーロ（4万2036円）である。

（注2）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

ブラジル政府、インドの砂糖政策をめぐりWTOにパネル設置を要請

ブラジル政府は7月11日、インド政府との砂糖

産業に対する支援政策に関する2国間協議が決裂したことを受け、世界貿易機関（WTO）に対し裁判の一審に当たる紛争処理小委員会（パネル）の設置を要請したと発表した。同政府は、インド政府が実施する生産者や製糖業者への財政支援はいずれもWTOのルールに反していると断じ、「これらの措置により公正な価格競争が阻害され、市場の機能が歪められている」と主張している。

インド政府は、「WTOのルールに何ら反していない」と従来の主張を繰り返し、歩み寄る姿勢を見せていないことから、パネルで決着するかは不透明である。ここで解決できなければ、どちらかが裁判の二審に当たる上級委員会に不服を申し立てる可能性が高く、最終的な判断が出るには1年以上かかるとみられる。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

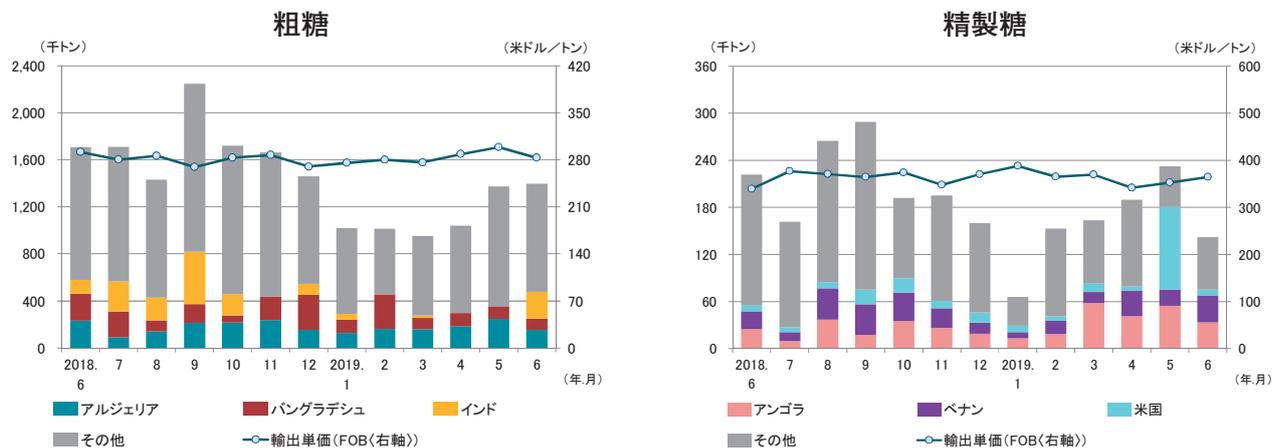
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 (6月予測) | 2019/20 (7月予測) | 前年度比 (増減率) |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|
| 収穫面積 | 8,488 | 8,617 | 8,649 | 8,473 | 8,473 | ▲ 2.0 |
| サトウキビ生産量 | 651,841 | 641,066 | 620,825 | 624,000 | 624,000 | 0.5 |
| 砂糖 | 生産量 | 41,670 | 41,490 | 31,300 | 30,921 | ▲ 1.2 |
| | 輸入量 | 4 | 2 | 3 | 3 | 0.0 |
| | 消費量 | 11,275 | 10,936 | 10,882 | 10,472 | ▲ 2.3 |
| | 輸出量 | 30,117 | 31,026 | 20,565 | 20,450 | ▲ 1.4 |
| | 期末在庫量 | 1,022 | 552 | 408 | 411 | 0.7 |
| | 期末在庫率 | 2.5 | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 前年度同 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：505万ha（前年度比4.6%増）
生産量：3億9938万トン（同2.4%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：3548万トン（同2.2%増）
輸出量：370万トン（同56.6%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、サトウキビの買い取り価格が引き上げられたことに伴う生産意欲の高まりにより505万ヘクタール（前年度比4.6%増）とやや増加すると見込まれている（表3）。一方、サトウキビ生産量は主要生産地における干ばつや害虫被害の影響でサトウキビの生育が停滞しているため、3億9938万トン（同2.4%減）とわずかに減少すると見込まれている。

砂糖生産量は3548万トン（同2.2%増）とわずかに増加し、輸出量は政府が製糖業者に対し輸送費などへの助成措置と引き換えに500万トンの最低輸出義務を課していることから、370万トン（同56.6%増）と大幅な増加が見込まれている。

インド製糖協会、2019/20年度は800万トンの輸出を目指す

インド製糖協会（ISMA）は7月10日、過剰な砂糖在庫の縮減に向け、2019/20年度は800万トンの輸出を目指す考えを示し、これを達成するために必要な財政支援をインド政府に要請していることを明らかにした。

現地報道によると、同政府はブラジルや豪州などから現行の政策支援に関してWTOに提訴されている現状を踏まえ、輸出補助金と指摘されている製糖業者への輸送費の助成措置などについては支給要件を見直しつつも、2018/19年度と同規模の予算措置を検討しているとされる。

表3 インドの砂糖需給の推移

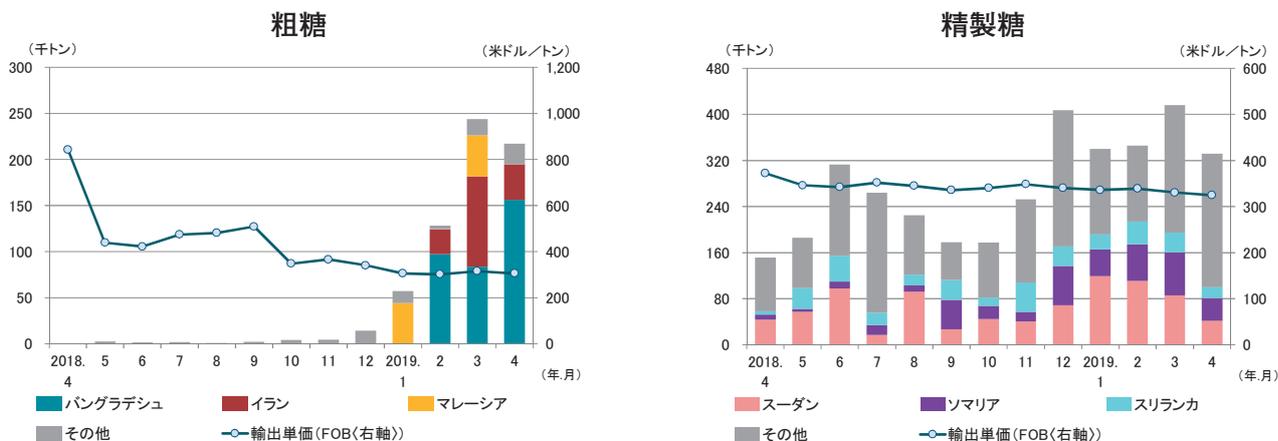
（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 (6月予測) | 2018/19 (7月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|-----------|
| 収穫面積 | 4,806 | 4,327 | 4,830 | 5,033 | 5,052 | 4.6 | |
| サトウキビ生産量 | 356,871 | 323,556 | 409,029 | 401,526 | 399,380 | ▲ 2.4 | |
| 砂糖 | 生産量 | 27,091 | 21,848 | 34,720 | 35,583 | 35,475 | 2.2 |
| | 輸入量 | 2,146 | 2,536 | 2,306 | 350 | 350 | ▲ 84.8 |
| | 消費量 | 26,784 | 26,568 | 26,929 | 27,460 | 27,460 | 2.0 |
| | 輸出量 | 3,955 | 2,233 | 2,361 | 3,698 | 3,698 | 56.6 |
| | 期末在庫量 | 8,370 | 3,952 | 11,688 | 16,463 | 16,355 | 39.9 |
| | 期末在庫率 | 27.2 | 13.7 | 39.9 | 52.8 | 52.5 | 12.6ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

中国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比1.0%減）
 生産量：7859万トン（同2.4%増）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（同30.5%増）
 生産量：1167万トン（同21.7%増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：1164万トン（同4.4%増）
 輸入量：604万トン（同0.4%増）

2018/19年度、輸入量は横ばいで推移する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかな減少が見込まれる一方、生産量は7859万トン（同2.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表4）。てん菜については、政府がトウモロコシ支援政策を変更^(注)したことでトウモロコシ価格が低下したことを受け、内モンゴル自治区などの生産者がてん菜への転作を進めていることなどから、収穫面積は24万ヘクタール（同30.5%増）、生産量は1167万トン（同21.7%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、原料作物の増産が期待できるものの、天候不順などの影響で平均糖度が平年を下回る

とみられることから、1164万トン（同4.4%増）と小幅な増加にとどまると見込まれている。輸入量は、米中貿易摩擦により中国経済の減速懸念が強まっていることなどから、604万トン（同0.4%増）と横ばいで推移すると見込まれている。

(注) 政府は2016年4月、トウモロコシ備蓄政策について、最低保証価格を廃止し、市場買い付けとする変更を行った。

中国農業農村部、2019/20年度の砂糖の需給見通しを公表

中国農業農村部（日本の農林水産省に相当する政府機関）は7月11日、2019/20年度の砂糖の需給見通しを公表した。これによると、前年度と比べおおむね天候に恵まれ、原料作物の生育が順調なこと

から、砂糖生産量は1088万トン（前年度比1.1%増）とわずかに増加すると見込まれている。

現地報道によると、内モンゴル自治区では6月に大量発生したバッタ類によるてん菜の食害被害が報告されているほか、広西チワン族自治区に次ぐサトウキビの産地である雲南省ではサトウキビの栽培面積の約35%に相当する圃場が干ばつに見舞われ、初期生育が著しく阻害されるなどの被害を受けているが、これらの影響は今回の見通しに反映されていないとみられる。このため、生産に関する見込みの数值は下振れする可能性がある。

他方、砂糖消費量は景気の安定的な推移を背景に、

1520万トン（前年度同）と横ばいで推移すると見込まれている。

2019年5月の砂糖輸入量、前年同月をかなり大きく上回る

中国税関総署が6月23日に公表した貿易統計によると、2019年5月の砂糖の輸入量は、前年同月と比べ11.8%増の38万トンと4カ月ぶりに前年同月を上回った。この結果、2018年10月からの累計では、177万トン（前年同期比13.5%増）とかなり大きく増加した。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

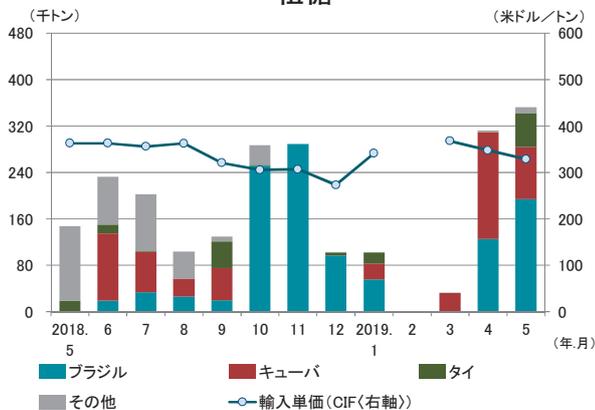
| 年度 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 (6月予測) | 2018/19 (7月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|-----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|----------|
| サトウキビ収穫面積 | 1,311 | 1,178 | 1,231 | 1,219 | 1,219 | ▲ 1.0 | |
| サトウキビ生産量 | 74,950 | 73,690 | 76,780 | 78,590 | 78,590 | 2.4 | |
| てん菜収穫面積 | 136 | 168 | 186 | 243 | 243 | 30.5 | |
| てん菜生産量 | 6,880 | 8,820 | 9,590 | 11,670 | 11,670 | 21.7 | |
| 砂糖 | 生産量 | 9,405 | 10,041 | 11,147 | 11,640 | 11,640 | 4.4 |
| | 輸入量 | 7,910 | 5,715 | 6,015 | 6,036 | 6,036 | 0.4 |
| | 消費量 | 16,847 | 16,847 | 16,931 | 17,142 | 17,142 | 1.2 |
| | 輸出量 | 181 | 146 | 195 | 174 | 174 | ▲ 10.7 |
| | 期末在庫量 | 11,926 | 10,689 | 10,724 | 11,084 | 11,084 | 3.4 |
| | 期末在庫率 | 70.0 | 62.9 | 62.6 | 64.0 | 64.0 | 1.4ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

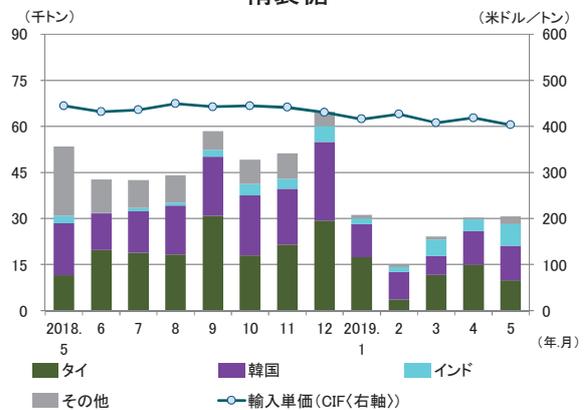
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3位を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

E U

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：171万ha（前年度比1.1%減）

生産量：1億1439万トン（同17.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1829万トン（同15.2%減）

輸出量：196万トン（同48.6%減）

2018/19年度、輸出量は大幅に減少する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は171万ヘクタール（前年度比1.1%減）とわずかな減少にとどまるものの、春先の冷え込みによる植え付けの遅れと、その後の少雨で乾燥した日が続いた影響により、てん菜生産量は1億1439万トン（同17.4%減）と大幅な減少が見込まれている（表5）。

砂糖生産量はてん菜生産量の減少に加え、てん菜の平均糖度が平年を下回るとみられることから、1829万トン（同15.2%減）とかなり大きく減少し、輸出量は前年度の砂糖の生産割当撤廃に伴う輸出増の反動で、196万トン（同48.6%減）と大幅に減少すると見込まれている。

欧州の砂糖業界、メルコスールとのFTA合意を批判

欧州てん菜生産者連盟（CIBE）、欧州砂糖製造者協会（CEFS）および欧州食品・農業・旅行労働組合連合（EFFAT）は7月2日、EUとメルコスールとのFTAが政治合意に達したことを受け、懸念を示す声明を共同で発表した。

この声明によると、今回のFTA合意を「史上最悪の譲歩」と酷評し、「EUで使用が禁止されている農薬を使用して生産されたブラジル産の砂糖がEU域内に流通することになるだろう」と皮肉った。また、過去にEUが一部の国とのFTAで実施した協定発効前の暫定適用についても、EUの砂糖産業に深刻な損害を与え、今回のFTAでは実施すべきでないと主張している。

表5 EUの砂糖需給の推移

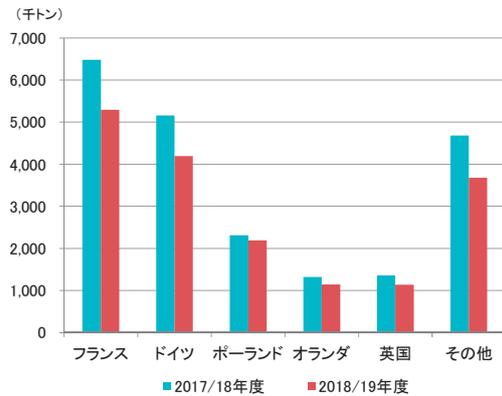
（単位：千ha、千トン、%）

| 年度 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 (6月予測) | 2018/19 (7月予測) | 前年度比 (増減率) |
|--------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|
| 収穫面積 | 1,364 | 1,466 | 1,732 | 1,713 | 1,713 | ▲ 1.1 |
| てん菜生産量 | 94,855 | 107,986 | 138,437 | 114,749 | 114,389 | ▲ 17.4 |
| 砂糖 | 生産量 | 14,937 | 17,069 | 21,578 | 18,327 | ▲ 15.2 |
| | 輸入量 | 3,651 | 3,117 | 1,731 | 2,391 | 38.1 |
| | 消費量 | 19,481 | 19,177 | 19,273 | 18,947 | ▲ 1.7 |
| | 輸出量 | 1,501 | 1,510 | 3,809 | 1,957 | ▲ 48.6 |
| | 期末在庫量 | 2,755 | 2,255 | 2,482 | 1,455 | ▲ 8.8 |
| | 期末在庫率 | 13.1 | 10.9 | 10.8 | 7.0 | 10.8 |

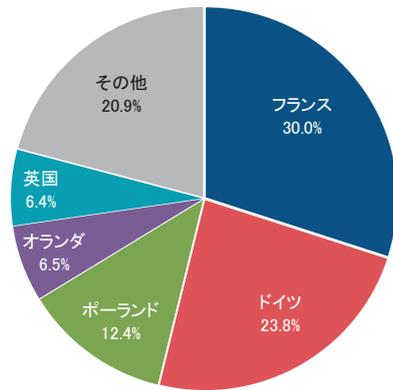
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年7月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：数値は予測値。



資料：欧州委員会
注：2018/19年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年7月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカについて報告する。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比0.4%増）
生産量：3159万トン（同3.0%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：444万トン（同6.0%減）
輸出量：344万トン（同0.9%増）

2019/20年度、砂糖生産量はかなりの程度減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度比0.4%増）と横ばいで推移するものの、2018年12月に集中豪雨に見舞われたクイーンズランド州北部を中心に湿害による生育不良の症状が見られることから、サトウキビ生産量は3159万トン（同3.0%減）とやや減少すると見込まれている（表6）。

砂糖生産量はサトウキビの生産減に伴い444万トン（同6.0%減）とかなりの程度減少する一方、輸出量は344万トン（同0.9%増）と横ばいで推移すると見込まれている。

豪州政府、インドの砂糖政策をめぐりWTOにパネル設置を要請

豪州政府は7月11日、ブラジルと同様、インド政府との砂糖産業に対する支援政策に関する2国間

協議が決裂したことを受け、WTOにパネルの設置を要請したと発表した。同政府は、「われわれは、2国間協議を開始する前からインド政府に対し、インドの輸出補助金が世界の砂糖需給に及ぼす影響などについての懸念を伝えてきたにもかかわらず、同政府は具体的な行動を取らず、今も輸出補助金を支給し続けている」と非難し、「インドの措置が豪州の生産者、製糖業者のみならず、豪州のサトウキビ生産地域の雇用にも多大な損害を与えている。今回のわれわれの行動は、砂糖産業によって支えられている地域の社会や経済を守るためでもある」と述べた。

マッカイ・シュガー社、モスマン工場の売却先が決まる

クイーンズランド州北部のサトウキビ生産者団体らが設立した製糖業者ファー・ノーザン・ミリング (Far Northern Milling) 社は7月8日、豪州の製糖大手マッカイ・シュガー (Mackay Sugar) 社が所有する製糖工場の一つ、モスマン工場 (Mossman Mill) ^(注) を買収すると発表した。マッカイ・シュガー社が7月下旬に開く臨時株主総会で正式に決定する。マッカイ・シュガー社は現在、経

営難を理由にドイツの製糖業者への売却計画を進めており、懸案事項だったモスマン工場の切り売りで財務体質の改善にめどが付いたことから、同社の経営再建も大きく前進することとなる。

サトウキビ生産者団体であるCanegrowersは同日、「地元関係者の悲願であった、モスマン工場を再び生産者の手に取り戻すという夢が現実になったことは非常に喜ばしいことだ」と述べ、「地域経済や地域社会をけん引する企業として活躍してほしい」と期待を表す声明を発表した。

現地報道によると、ファー・ノーザン・ミリング社は、粗糖輸出に依存した収益構造から脱却し、国内外の実需者への直接販売を主体とする「精製糖企業」への転換を図ることや、施設内の遊休地を活用してバイオマス発電などの再生可能エネルギー関連事業にも乗り出すことを明らかにしている。

(注) モスマン工場は、クイーンズランド州北部にあり、日本向けの粗糖も生産している。もともと地元の生産者団体が経営する工場であったが、2011年にマッカイ・シュガー社に買収された。マッカイ・シュガー社が所有する四つの製糖工場の中で最も処理能力が低いとされる。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 (6月予測) | 2019/20 (7月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 368 | 376 | 384 | 385 | 385 | 0.4 | |
| サトウキビ生産量 | 36,506 | 33,344 | 32,566 | 31,680 | 31,585 | ▲ 3.0 | |
| 砂糖 | 生産量 | 4,797 | 4,463 | 4,725 | 4,458 | ▲ 6.0 | |
| | 輸入量 | 68 | 29 | 29 | 91 | 209.8 | |
| | 消費量 | 1,159 | 1,112 | 1,068 | 1,089 | 2.0 | |
| | 輸出量 | 4,004 | 3,601 | 3,412 | 3,462 | 3,442 | 0.9 |
| | 期末在庫量 | 969 | 747 | 1,021 | 1,019 | 1,025 | 0.3 |
| | 期末在庫率 | 18.8 | 15.8 | 22.8 | 22.4 | 22.6 | 0.2ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：179万ha（前年度比0.1%増）

生産量：1億3097万トン（同2.9%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1546万トン（同0.8%減）

輸出量：1218万トン（同20.9%増）

2018/19年度、輸出量は大幅に増加する見込み

2018/19砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は179万ヘクタール（前年度比0.1%増）と横ばいで推移すると見込まれるものの、サトウキビ生産量は台風の勢力が弱まった熱帯低気圧が多く通過し、サトウキビの倒伏、茎葉の傷みなどが発生した影響を受け、1億3097万トン（同2.9%減）とわずかに減少すると見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、気象被害が少なかった東北部のサトウキビの平均糖度が平年を上回り、サトウキビの減産分を相殺するとみられることから、1546万トン（同0.8%減）と横ばいで推移すると見込まれている。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するために輸出を強化するとみられることから、1218万トン（同20.9%増）と大幅な増加が見込まれている。

タイ製糖協会、焼き畑の抑制に向け政府に追加支援を要請

タイ製糖協会（TSMC）は7月11日、焼き畑の抑制に向けたタイ政府の対策^{（注）}が不十分であるとし、同政府に対し支援策拡充の必要性を訴えた。

焼き畑が規制されれば、生産者はハーベスタを導

入するか、または労働者を雇い、サトウキビの葉や梢^{しょうとうぶ}頭部を手作業で除去するかの選択を迫られるが、いずれもコストがかさみ、経営への打撃は避けられない。そうなれば、サトウキビから他作物への転作が進み、サトウキビの生産量が減少することで、製糖業者の収益にも影響が出る可能性が高い。今回のTSMCの行動は、長引く砂糖の国際価格の低迷で製糖業者の業績が悪化する中、これ以上の負担増は国際競争力の低下を招くという危機感があるとみられる。

TSMCは、ハーベスタ導入に必要な資金の低利融資制度が中小・零細生産者を対象としたものとなっていると指摘した上で、製糖業者も融資が受けられるよう運用の見直しを図り、製糖業者がハーベスタを所有し、生産者から農作業を受託する体制（農作業の受委託化）を早期に構築すべきとの認識を示した。

（注）タイ政府は、サトウキビの葉や梢頭部を燃やした後に収穫する焼き畑が大気汚染の悪化につながっているとし、2022年までに焼き畑の割合を5%以下とすることを目指している（2018/19年度の焼き畑の割合は約61%〈推計〉）。これに向けた具体的な対策は、「タイにおける砂糖産業の動向」『砂糖類・でん粉情報』2019年6月号（https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html）をご参照ください。

表7 タイの砂糖需給の推移

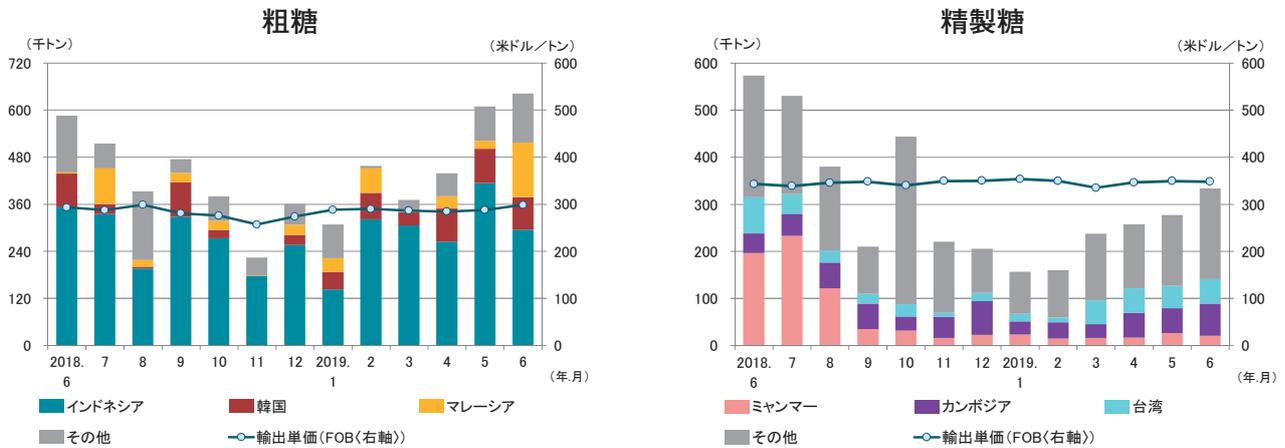
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18 | 2018/19 (6月予測) | 2018/19 (7月予測) | 前年度比 (増減率) |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|
| 収穫面積 | 1,644 | 1,578 | 1,790 | 1,792 | 1,792 | 0.1 |
| サトウキビ生産量 | 94,047 | 92,951 | 134,929 | 130,970 | 130,970 | ▲ 2.9 |
| 砂糖 | 生産量 | 10,402 | 10,657 | 15,586 | 15,457 | ▲ 0.8 |
| | 輸入量 | 1 | 0 | 6 | 3 | ▲ 48.4 |
| | 消費量 | 3,272 | 3,283 | 3,347 | 3,140 | ▲ 6.2 |
| | 輸出量 | 7,932 | 7,393 | 10,077 | 12,183 | 20.9 |
| | 期末在庫量 | 3,970 | 3,951 | 6,118 | 6,255 | 2.2 |
| | 期末在庫率 | 35.4 | 37.0 | 45.6 | 40.8 | 40.8 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3位を表示。

南アフリカ

2019/20年度(4月～翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：28万ha(前年度比0.7%増)

生産量：1930万トン(同1.4%増)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：233万トン(同0.6%減)

輸出量：87万トン(同12.5%減)

2019/20年度、輸出量はかなり大きく減少する見込み

2019/20砂糖年度(4月～翌3月)のサトウキビの収穫面積は、28万ヘクタール(前年度比0.7%増)と横ばいで推移すると見込まれている。また、サトウキビの生育はおおむね良好であることから、生産量は1930万トン(同1.4%増)とわずかに増加すると見込まれている(表8)。

砂糖生産量は、一部地域で4～5月にかけて降雨が多く、平年より収穫時期が遅れているものの、サトウキビの品質や歩留まりへの影響は小さいとみられることから、233万トン(同0.6%減)と横ばいで推移すると見込まれている。輸出量は、砂糖の国際価格の低迷が続いていることから、輸出を控える動きが広がりつつあり、87万トン(同12.5%減)とかなり大きく減少すると見込まれている。

南アフリカの製糖業者、大規模なリストラを検討

南アフリカなどで製糖やでん粉製造などの農産品加工を手掛けるトンガート・ヒューレット(Tongaat Hulett)社は5月23日、高コスト構造の是正や事業合理化の一環として、5000人規模の人員削減を行うと発表した。

南アフリカの砂糖産業は近年、通関業務の不手際起因した安価な外国産砂糖の大量流入^(注)、糖類を含む飲料に対する砂糖税の導入による砂糖需要の縮減、砂糖の国際価格の低迷による輸出不振などの逆風が相次いでいた。このため、同社は製糖事業などの不採算事業を整理し、経営の抜本的な変革が必

要と判断したとみられる。

現地報道によると、同社は今回の人員削減と合わせて、南アフリカ国内に所有する四つの製糖工場のいずれかを売却する方針を固めたとされる。

(注) 2017年4月から9月までに輸入された砂糖について、本来適用すべき税率よりも低い税率が適用され、そのうち数週間は無税で通関されていたことが判明した。徴収されなかった関税額について、政府は具体的な金額を公表していないものの、貿易統計などから推計すると、数億南アフリカ・ランド(1南アフリカ・ランド=約8円)に上るとみられる。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2015/16 | 2016/17 | 2017/18 | 2019/20 (4月予測) | 2019/20 (7月予測) | 前年度比 (増減率) |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|
| 収穫面積 | 250 | 275 | 280 | 276 | 282 | 0.7 |
| サトウキビ生産量 | 15,075 | 17,388 | 19,032 | 18,700 | 19,299 | 1.4 |
| 砂糖 | 生産量 | 1,712 | 2,158 | 2,348 | 2,342 | ▲ 0.6 |
| | 輸入量 | 963 | 847 | 711 | 701 | ▲ 4.6 |
| | 消費量 | 2,274 | 2,304 | 2,097 | 2,134 | 1.8 |
| | 輸出量 | 225 | 801 | 999 | 907 | ▲ 12.5 |
| | 期末在庫量 | 525 | 425 | 388 | 390 | 1.0 |
| | 期末在庫率 | 21.0 | 13.7 | 12.5 | 12.8 | 13.0 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, July 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。